

7
―
1

1

永禄四年辛酉文化七年
庚午正当式百五拾回忌

高樹院尊靈式百五拾回御忌
之砌於尾高村源光時御

法事經營諸控 勝意

文化七年庚午正月廿六日

2

「白紙」

3

山遊永順庵主式百五拾回御忌

花雲妙榮禪尼来ル酉年式百

回御忌ニ付此度一所取越致

法事經營度付菩提寺

尾高村源光寺和尚心光寺

逗留之節□子罷越致

4

対面右二靈^江院号送号等

授被呉候様及挨拶候処其段

許容有之ニ付右之通授与

有之事

5

永禄四年辛酉正月廿六日

高樹院山遊永順大禪定門

附たり於米子元祖道喜公祖父君也

慶長十九寅正月六日

蓮臺院花雲妙榮大禪定門

附たり於米子元祖道喜公祖母君也

式百回忌取越法事 文化七年正月

廿六日一所經營

6

右之通送号授与貰候ニ付右

挨拶之ため去霜月源光時へ

参詣墓所余程埋り法名等

不分明ニ付同所石工呼寄
墓所為□□今度授貫申
院号等深彫り記置事

ひれ□小五ツ茶酒料

7

付り 良右衛門様と参詣申ニ付

ゆば十本

源光時之進物下書顯ス

松露□□

一 大谷藤兵衛儀近年筋目不正

縁組申ニ付及儀絶罷在之所

元祖高樹院墓所新塔婆

建有之ニ付源光寺へ相尋候処

藤兵衛より建申旨被申ニ付筋造

之段及通達罷帰事

8

一 右一件藤兵衛重々不埒難捨置

□□ニ及相談下地詔置候大工

積立取進之儀先ツ差留旁

藤兵衛法事執行筋違

之段源光寺へ申入置猶

本寺心光寺末次氏菩提寺

ニ付内々物語有之ニ付即日

9

源光時呼寄被申候、藤兵衛方へ

使僧を以塔婆取除之儀申入候

処藤兵衛不埒返答申ニ付

猶心光寺より厳敷詰刎ニ付

藤兵衛より建候塔婆取除落

着申由、右ニ付則源光時本寺

心光寺より為使僧西普被参今度

10

源光時藤兵衛より相頼候ニハ

乍申当時不平御末□容易

法事致経営段重々源光時

大心得違□慈昨今藤兵衛手前

詰合右塔婆取除候間何卒

宥免致し呉候様挨拶被申就

其後源光時よりも手前
右塔婆取除候段挨拶

1
1

有之事、然ル上ハ此方必然も
致し已前之通大工細工之儀も
取懸候様申遣候事

無程正月廿六日も進度申候ニ付

双方案内手紙差遣し候
左之通

1
2

末次彦左衛門 廿六日夕積進落之節
案内左之通

深田喜左衛門 村川市兵衛

野浪助次郎 内田五左衛門

須山孫右衛門 内田佐左衛門

右三軒也

右四軒か區別に近縁ニ付尾高

1
3

源光時迄へ之案内

一 心光寺和尚尾高源光寺請待

申事 附り 廿五日昼八ツ時当所出立駕籠人足遣候得共

天氣能ニ付歩行被参候事

帰路ハ老僧之事故手前より

駕籠為持迎人越ニ付其段も

及挨拶駕籠乗罷帰候事

1
4

一 廿五日昼八ツ時迄ニ馳走賄方

忠右衛門・武五郎兩人万端

申付残品無之送出私義も

末次氏同道ニ而尾高へ参

事、珍敷天氣ニ付道々慰ミ

七ツ下刻ニ源光寺参事

附たり安来之左助兼而心易参ニ付

何角見繕ニ参度申ニ付則

1
5

同道之事

一 廿五日夜料具相備へ短夜

勤有之事

一 廿五日早朝参詣之人別

陶山源左衛門息重藏

野浪助次郎息熊之丞

深田三郎衛門息次郎衛門 右三人

16

末次氏ハ前夕より参詣之事

一 廿六日朝五ツ時より法事始り

九ツ時前ニ相済

焼香 壱番 新五郎

貳番 末次

参番 深田

四番 野浪

五番 陶山

17

右首尾能相済夫より墓所へ

参水をたむけ戻り

座敷へ通り非持差出次第

心光寺和尚 末次氏

源光寺和尚 深田氏

小僧 野浪氏

小僧 陶山氏

安来屋佐助も請待為致事 私

18

非持献立

さしみわさひ

ゆは

大根

皿 揚ふ

赤蒲

こんにやく 猪口 いり酒

香茸

海素麵

氷豆腐

椎茸

汁 卷豆腐

くわん菜

木くらげ	坪	19	向詰	平皿 飛龍頭	盃	水口段到来饅頭差出し申	右給候而	猪口 ひたし	汁 椎茸
焼くり			茶碗	香茸	香物 味噌□也	御菓子 五ツ□□ 七文宛	御酒	廿六日朝献立	
皮牛蒡			セリ	山いも	くわへ串	御茶	但	御酒 肴少々	
丁おろき			ゆば		附揚饅頭	廿五日着夕 献立	皿 酢和	汁 干大根	
			角ふ		揚こんふ		焼豆腐	油こんにやく	
					衣かけ牛蒡		皮牛蒡	生和布	
					塩つけ青茄子		平 丁子いも	御飯	
							香茸		
							丁子ふ		
							水菜		
							豆腐		

木□□□□

青ミ

平 わらび焼寄牛蒡

干瓢香茸

御飯 小豆飯

右之通ニ首尾能相済

即刻和尚暇乞致皆々

2 1

退寺、心光寺和尚ハ駕籠ニ而直致

帰寺、銘々共ハ式村観音寺

杉原播摩寺森重公御菩提寺

ニ而御墓所も有之ニ付往古之由緒

思ひ出し観音寺本堂上成山上ニ

御墓有之ニ付詣水をたむけ

夫より皆々同道ニ而私宅へ罷帰候事

附たり 八幡村陶山義ハ同性出府中

ニ付尾高村より直ニ罷出申事

2 2

今度法事布施左之通

源光寺和尚へ 四拾目

心光寺和尚へ 廿匁

小僧兩人 六匁 但三分宛

源光寺墓所セ話人

五人 拾匁 但貳分当

通之小供当貳分 但壹分宛

2 3

合七拾八匁

其外右法事ニ付雑用銀

荒増左之通

御墓所造入用 卅六匁 但廿六匁

石工并ニ

人夫

拾匁

かつら

石手間代

右御墓所へ石燈籠奉納ニ付

拾七匁 但石工源兵衛相渡

外ニ貳匁 右石燈籠尾高村

取寄ニ付候船賃

2 4

一 塔婆式本 但 高樹陰式百五十回忌

蓮臺院式百回忌

取越法事^ニ付

但 杉上四寸角式本代九匁

右塔婆けずり^ニ大工三日

作料 六匁外^ニ雜用式匁

合十七匁也

尾高村へ持運之諸色入用早々

左^ニ書頭候事、并^ニ手前に請遣

家来入用荒増如此

25

一 式拾目 酒代 但 尾高村^{ニ而}

入用五本

其外手前^{ニ而}

^{ニ而}仕出之折

精進落客来

之節入用

一 三拾目 但 白米五斗計入用

尾高村において式斗三升計

其余手前^{ニ而}前後

之節入用

一 四拾目 但 法事前後調物

代

一 六匁五分 但 法事中御用

十三人之分

26

一 九匁式分 精進落し之衆

肴代

一 五匁 塩鯛 十一枚

焼物入用

一 式拾三匁 高樹院

蓮墓院 二靈位牌代

則尾高村源光院寺送ル

ズ式百八拾三匁五分

外^ニ三匁半□□^ニ遣ス 滝□左□□新泊

右之通入用分事

尾高村小鷹村観音寺へ参り

盛重公由緒帳有之候ハ、一所ニ

27

申度、式村之者を以住主へ御尋

候得共、当時虫ニ而不分明之由

ニ而不及一覽之事、夫より

帰路晴天ニ付道々慰快

七ツ下刻則私宅へ罷帰事、

精進落献立

皿 さしミ

鯛□

大くまミ

□はね

汁 椎茸

大根

生和布

海素麵

備前海苔

28

薄くすつくり

平皿 しの竹輪

きんなん

干瓢

御飯

香茸

皮牛蒡

山いも

ふき

29

御酒

肴 種々手輕る略す

客来

但 村川氏ハ竹島由緒ニ付案内致ス

鹿島当時□□ニ□持并者内

村川市兵衛

内田五左衛門

末次彦右衛門

内田佐左衛門

深田三郎右衛門

野波熊次郎

鹿嶋次郎左衛門

□□兵助

30

右之通精進落し客来

同廿六日夜八ツ時頃迄賑々敷

致し首尾相済候事

右客来セ話人

大屋宗右衛門

千秋 取持人

同 喜兵衛

安来や虎助

伊藤伊兵衛

同 新蔵

榎 伊兵衛

向 甚右衛門

後 五郎

万歳 右人数へも不取敢仕度

差出候事

3 1

(白紙)

3 2

文化七年庚午正月廿九日

相認置也

於米府へ引越之元祖

道喜公より七代之孫

大谷新九郎藤原勝意

三十一歳之春也

高樹院尊霊よりハ

九代目也